

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021年 2月

「天国で」「地上における神の大使（1）」「わたしたちのために生きておられるキリスト」「巻き寿司」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強

「地上における神の大使 ( I )」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

7

In Heavenly Places

現代の真理

「わたしたちのために生きておられるキリスト」 36

わたしたちが信仰の一致に到達するまで

力を得るための食事

「巻き寿司」

42

レシピ

お話コーナー

「昇天 ( I )」

44

イエスの物語

### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

### 【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2021年1月10日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Image on Front page; Sermon View on page 48

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)

Printed in Japan

## キリストのあいさつのことば

山上での祝福のことばは、ただ単に信じる者だけではなく、人類家族全体に対するキリストのあいさつのことばである。イエスは、しばし、ご自分が天上ではなく、この世界にいることを忘れられたかのように見受けられる。そして、イエスは光の世界で言いなれたあいさつのことばを用いられる。長い間閉ざされていた豊かな命の流れがほとぼり出るように、祝福のことばがイエスのくちびるからあふれ出るのである。

キリストが常に是認して祝福される品性の特徴は、疑う余地がないほど明らかにされている。イエスは世の野望を夢見た人気者に背を向けて、かれらが顧みない世に捨てられた人々に心を寄せ、主の光と命を受けるすべての者に祝福を宣言されるのである。心の貧しい者、柔和な者、謙そんな者、悲しむ者、侮られる者、迫害される者に、イエスは保護のみ手を伸ばして、「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と言われるのである。

キリストはこの世界の苦悩をごらんになっても、人類を創造したことを少しも悲しまないでごらんになれるのである。キリストは人間の心の中に罪と苦悩だけをごらんになるのではなく、それ以上のものを見られるからである。主は、無限の知恵と愛のうちに、人間の可能性、すなわち人間がどんな高さにまで到達できるかを見られるのである。たとえ人間は、神のあわれみを乱用し、神がお与えになった尊厳を破壊してしまったにしても、なお人間をあがなうことによって創造主に栄光が帰せられることを知っておられるのである。

祝福の山からキリストが語られたことばは、各時代にわたって、その力を保つことであろう。一つ一つの文は真理の宝庫から取り出された宝石である。この説教において述べられた原則は、各時代のあらゆる種類の人々のためのものである。キリストは、正しい品性を形成したためにさいわいになった人を次々にお述べになって、ご自分の信仰と希望を力強く表明されたのである。主を信じ、命の与え主なるイエスの生涯をわたしたちがたどることによって、だれでも主のことばの中に掲げられた標準に到達できるのである。(祝福の山 序言)

## 第21課 地上における神の大使 (I)

どのくらいの数の宗教があるだろうか？

無数にある形態の様々な宗教が地上を支配しているように見えます。今日、1,000以上もの異なる宗教が存在しています。日々、新しい宗教が発生しており、多くが唯一の神の教会であると主張しています。その結果、人々は次のように尋ねます。「どれが真の教会だろう？わたしはどの教会に所属すべきだろうか？」。非常に多くの宗派が存在するため、人はそれぞれを調べるほどますます混乱してまいります。ある人は言います、「教会に所属することはそれほど重要ではない。どの教会も良い。しかし、教会が人々を救うわけではない。ただ、キリストのみが救うのである」。そのため、彼らは、あらゆる教会のために働きます。他の人々は失望し、自分の宗教的な関心を失ってしまいます。

過去数年にわたり、諸教会を統一するために多くの努力が払われてきました。分裂は損害を生じさせ、また教会のメンバーの数を減少させ、さらにメンバーが進むべき道を見失わせてしまうと認識されてきました。彼らは異なる宗派はお互いに歩み寄り、最終的には一つの団体—ひとつの群れ、ひとりの羊飼いに統一されるべきだと論じています。この諸教会の統一に向けた動きは、第二バチカン会議以降、ますます見られるようになってきました。統一がなし遂げられるようにと、いくつかの違いはすでに取り除かれ、他の相違は取り除かれつつあります。

神の教会とは何でしょうか？それはどれでしょうか。どのようにすれば真の教会を見つけることができるでしょうか。わたしはどの教会にいても救われることができるのでしょうか？救われるためには、教会員になる必要があるのでしょうか。おそらく多くの人の思いを占めているこれらの質問やその他多くの質問は、答えを得ることができます。もう一度、聖書をめぐり、これらの問題に対する真理を明確に指し示している勧告を読みましょう。

神の教会とは何か？

敬神深い民が共に交わり、地上でご自分の品性を代表することが、つねに神のみ旨でした。これらの神の僕たちは、天の御国の代表者です。つまり、彼らは天の大使です。パウロはこの真理を次の言葉で確認しています、「神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。

そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい」(コリント第二 5:20)。

国家の代表する者として、大使は自分の国、その法律、規則、慣習を忠実に表さなければなりません。大使は、その国の法律を変更するも、また存在してもしない法律を教えることもできません。そうすることによって、大使は自分の国を誤って表すことになり、裏切り者になります。天を代表者と神の律法に対する彼らの敬意も同様です。神の大使たちは自分たちの生活や教えにおいて、聖なる義の律法を高く掲げなければなりません。

「それだから、これらの最も小さいいましめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これをおこないまたそう教える者は、天国で大いなる者と呼ばれるであろう。」(マタイ 5:19)。

神の教会は、また人間の体と比較されます。すなわち、その肢体が教会員であり、その頭がキリストご自身です。

「からだ一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。…あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。」(コリント第一 12:12,27)

頭は指令を与え、体のために決断を管理します。それにより、体が健全で完全であることができるためです。キリストは一つの体、すなわちご自分の教会の頭であって、教会を統治し、健全にしてよく構築されかつよく指導された組織を保つために必要な標準を決定なさいます。

そのため、クリスチャンたちが一致するのは完全に正しいことです。しかし、最初の一步はキリストと記された神のみ言葉との一致です。今度はそれが信徒たちを目的と教理において一致させます。諸教会の結合は、地上においては有益であると思われるかもしれませんが、それが神のみ言葉に基づいていない場合、真の一致には至らない偽りの基礎なのです。

## 神の教会の起源はいつか？

世のはじめから神は地上にご自分の代表者たちをもっておられました。エデンの園では、アダムとエバが天の大使でした。彼らが墮落した後、神はご自分を代表するために神の教会を構成する忠実な魂を選ばれました。神は、決して神の教会を構成する人々を無条件に選ばれたことはありません。旧約聖書の歴史の中で、人々が神に従っている間は神の民となることができたことを見ます。これは、まさに神が命じられたとおりです。「…あなたがたが主と共にいる間は、主もあなたがたと共におられます。あなたがたが、もし彼を求めらば、彼に会うでしょう。しかし、彼を捨てるならば、彼もあなたがたを捨てられるでしょう。」(歴

代志下 15:2)。

ユダヤ国家は、神の選民であり、神を代表するためにあらゆる機会が与えられていました。イスラエルが主に従い、善への強力な感化力であった時、そして神が彼らと共におられた時の具体例が多くあります。しかし、彼らはいつも主から離れ、ついには彼らの進むべき道と目的を見失いました。

キリストが地上での働きを開始された時には、ユダヤ国家は道を踏み外しており、あまりにも神を誤り伝えたがために、自分たちの預言されたメシヤを認めることさえできませんでした。彼らは、自分たち自身の伝統と神のみ言葉の解釈に浸り込んでいました。

イエスはご自分の選民のために3年奉仕された後、ついに彼らの正式な礼拝から永遠に離れられました。「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたしは言って置く、『主の名によってきたるものに、祝福あれ』とおまえたちが言う時の来るまでは、再びわたしに会うことはないであろう」(ルカ 13:35)。

イエスはこれらの宗教的指導者を後にし、ご自分を代表するために数名の貧しい漁師を選ばれました。このお方はご自分の教会の核を設立され、教会が真の基礎であるイエス・キリストに真実であり続ける限り、何もものそれを破壊することはできないと宣言されました。

「そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」(マタイ 16:18)。

ペテロが「あなたこそ、生ける神キリストです」(マタイ 16:16)と答えた時の彼の言葉の真理によって、神の教会が設立されました。

各時代にわたり、悪魔は忠実な教会を破壊しようとしてきました。迫害され、殺されたにもかかわらず、これらの輝く光たちを消失させることはできませんでした。神の御目に地上で最も貴重な対象は、ご自分の教会です。このお方は次のように述べておられます。「あなたがたにさわる者は、彼の目の玉にさわるのである」(ゼカリヤ 2:8)。

# 天国で

*In Heavenly Places*



2月

2月1日

## キリストは神の律法を例証された

「その時わたしは言った、『見よ、わたしはまいります。書の巻に、わたしのためにしるされています。わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』と。」(詩篇 40:7, 8)

律法の生きた良い例が人類に与えられねばならないことが、天の会議で決定した。人類の救いに関してこの大いなる犠牲を払うことを決定することについて、神は不明瞭なことや分かりにくいことは何も残されなかった。品性を形造るための基準を人類に与えられた。神はご自分の律法をシナイ山から荘厳な重々しさのうちに人の耳に聞こえる声で宣言された。このお方は、ご自分に対する従順を受け入れられるものにするために、わたしたちがしなければならぬことと、わたしたちが神の律法に忠誠を尽さなければならぬことを、……はっきりと述べられた。「イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」(マタイ 22:37 - 40)

ご自分が創造されたものへの主の関心は非常に強く、世界に対するこのお方の愛が非常に大きかったので、主は「御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るために、そのひとり子を与えて下さった」(ヨハネ 3:16)。キリストは、人に道徳力をもたらし、人を高尚にし、気高くし、力強くし、神性にあずかる者になれるようにし、情欲を通じての世にある墮落をまぬかれさせるために来られた。このお方は、墮落していない世界の住人と人類とに、律法は守ることができることを証明された。人の特質をそなえつつ、神の正義に従うことへの要求の正当さを主張しながら、神の律法に従われた。審判においてこのお方の生涯は、神の律法に有利となる答えることのできない論点になるであろう。

思考力を持っている人はみな自分の義務の大きさを学ぶことができる。キリストはわたしたちの型であって、人としてしみのない生涯をおくり、憐み深く思いやりがあつて従順な、すなわち恵みとまこととに満ちたお方であった。その従順な生涯により、キリストは律法を真に表現された。キリストと一つになることによって、墮落した罪深い人類は神の教訓にその生涯を一致させることができる。神の戒めを守ることによって、彼らはみ父を表すために世に来られたお方と共に働く者となることができる。(原稿 48, 1893 年)

## 天とのきずな

「また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。」(マタイ 3:17)

キリストはヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けて後、水から上り、川の土手にひざまずいて、ご自身が従事しようとしている闇の君との闘争に耐えるための力を、天父に熱烈に祈り求めた。その祈りに応えて天が開け、真昼の太陽よりも明るく輝く神の栄光の光が永遠の御座から流れ出、光沢のある金のように見える鳩の形をしたものが神の御子を取り囲み、栄光に満ちた所から、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」というはっきりとした声が恐るべき威厳をもって聞こえた。

ここで、御父が墮落した人類を彼らの身代りを通して受け入れ、彼らに二度目の試練を与えるということが神の御子に保証された。アダムの墮落によって断ち切られていた天と地とのつながり、神と人とのつながりが回復した。罪を知らないお方が人類のために罪となられたが、それはこのお方の義を人間に着せることができるためであった。キリストの品性の完全を通して、人は神の道德上の価値観のはかりにおいて高められ、キリストの功績を通して有限な人間が無限のお方とつながった。このようにして、罪が作り出した深淵は世の贖い主によって橋がかけられた。

しかしほとんどの者は、キリストが、ご自分の前にこのように開いている天によって人のために獲得して下さった大いなる特権について真の認識がない。神の御子はその時、人類の代表者であり、天の至高者がキリストに与えられた力と栄光、そして是認の言葉は、このお方の愛と人に対する善意についての最も確かな誓約である。わたしたちのためのキリストの仲保の言葉が聞こえた時、神はキリストのみ名を通してわたしたちが自分自身のために祈る祈りを受け入れて下さるとい証拠が人に与えられた。信仰のたゆまぬ熱心な祈りは、サタンのも最も激しい攻撃にも耐えることのできる光と力をわたしたちにもたらす。……生きたクリスチャンの生涯は生きた祈りの生涯である。……わたしたちの偉大な指導者は、わたしたちに開いた天を、光と力の唯一の源として指し示す。(苦しみ 7-10)

2月3日

## 驚くべき謙遜

「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。」(コリント第二 8:9)

わたしたちは、フランスが王制であった時代に王の宮殿であった建物を訪れた。……最初、わたしはかつてこれらの壮麗な大広間を横切り、柱廊で異彩を放っていた王たちに思いをはせた。彼らの人間としての偉大さは今どこにあるのだろうか。……

そのとき、わたしたちは恵みに満ちた愛の目的をもって、わたしたちの世界に来て下さったイエスのことを思い出すのである。このお方はご自分の王衣と王冠を自ら脱ぎ、玉座から降りて、ご自分の神性の上に人性をまとい、悲しみの人となり、悲哀を知るためにこの世界に来られた。このお方が、苦しんでいる者を祝福し、病人をいやし、病弱な老人を楽にし、ご自身の聖なる憐みをもって、人間の悲哀と苦悩の深みにまで達しつつ、貧しい人々の中におられるのをわたしたちは見る。このお方は、苦しんでいる者と小さな子供たちの必要にすら注目される。……

天使たちは失望している者、苦しんでいる者に憐みの使者として送られている。光の国からの天使たち、神の無限の栄光に輝く御座の前からやってくる天使たちは、苦しんでいる人間に対する愛と心配りと憐みの使命を帯びている。しかしこれよりも、もっと謙遜なお方、すなわち主、限りない御父の御子、……地の諸王の上に君臨する君がおられる。……

このお方の謙遜に比べれば天使たちの働きはどれほどのものであろうか。このお方は自然という偉大な宮の中にある、あらゆるアーチと柱を養っておられる。神の創造のはじめであり、星を数え、諸世界を創造されたお方、すなわち、それらの諸世界に比べると、この地は小さなちり、森の木々に対する小さな一枚の葉よりも小さな存在でほとんど見過ごしにされるのであるが、このお方を見つめなさい。このお方の前では、諸国民は、「おけの一しずくのようにはかりの上のちりのよう」である(イザヤ 40:15)。……

主、すべての栄光に輝く贖い主、ご自身が創造された世界の一住民であり、なおかつ、祝福し、救うために、本当に大いなる関心を示されたその人間達に認められなかったお方をじっと見つめなさい。……地上の墮落した人間達に対する何という謙遜、何と驚くべき愛であらうか。(原稿 75, 1886年)

## すべての神秘の神秘

「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:6 - 8)

キリストご自身は罪のしみもしわもないお方であったが、人間の特質をとって、敵の最も残忍な攻撃、最も激しい誘惑、最もするどい悲しみにさらされた。誘惑を耐え忍ばれた。このお方はその兄弟のさまでつくられたが、それは与えられた恵みによって、人類が敵の誘惑に打ち勝つことができるということを示すためであった。……「見よ、わたしはまいります。書の巻に、わたしのためにしるされています。わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と言われたこのお方の言葉を聞きなさい(詩篇 40:7, 8)。この地上に来られる目的をこのように知らせるお方はいったいどなたであろうか。イザヤは「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神 とこしえの父、平和の君』ととなえられる」と、わたしたちに伝えている(イザヤ 9:6)。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。……すべてのものは、彼によってできた。できたもののうち、一つとして彼によらないものはなかった。この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」(ヨハネ 1:1, 3, 4, 14)。……

「たしかに偉大なのは、この信心の奥義である、『キリストは肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天にあげられた。』」「それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。」「御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである」(テモテ第一 3:16, ピリピ 2:9 - 11, コロサイ 1:15)。

キリストの受肉はあらゆる神秘の中の神秘である。(手紙 276, 1904年)

2月5日

## わたしたちの犠牲であり保証人であるキリスト

「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。」(ペテロ第一 2:24)

あなたが自分の犯した何かの犯罪のために刑務所に投獄され、死の宣告が下されているところへ一人の友人が来て、「わたしがあなたの身代りになるから、あなたは自由の身になります」と言うとしたら、あなたの心はそのような無我の愛に対する感謝の気持ちで満たされないであろうか。キリストはわたしたちのためにこれ以上のことを限りなくして下さっている。わたしたちは失われていた。死の宣告が下されていたが、キリストがわたしたちのために死んで、こうしてわたしたちを自由の身にして下さったのである。このお方は「わたしはこの罪人の犯した罪を自分の身に負う。そうすれば彼はもう一度試みを受けることができるから。わたしは、彼が悪との苦闘で打ち勝つことができる力を、彼の手の届く範囲に置こう」と言われた。

これが今日人類の立っている状況である。キリストがわたしたちをご自分の生命で買われたので、わたしたちはこのお方のものである。わたしたちの体力、知力、霊的力はすべてこのお方に属しており、このお方のものであるものを差し出さないでいるというのは強盗罪である。(原稿 11, 1885 年)

できることなら、キリストの苦しみの性質と度合いを想像してみなさい。人間としてこの苦しみは、キリストがそのために死なれた者全体の上に、神の憤りが降り注ぐのを防ぐためであった。本当に、この偉大な犠牲は教会にとって、永遠にわたって有効である。わたしたちは、教会の違反の総数を計算することができるであろうか。不可能である。それでは、キリストが……ご自分の教会のために身代りの立場に立っている時に何を耐え忍ばれたかについての概念に、誰が近づくことができるだろうか。……「このお方が」、罪人のために打たれることができ、なおかつご自身に罪がないために焼き尽くされることのない唯一のお方であった。……神のひとり子の犠牲の中に、神の正義と聖潔の畏るべき栄光が明らかに示されている。(原稿 6, 1897 年)

キリストは、ご自身の生命をかけて、地上のあらゆる男女のための責任をとられた。このお方は神の御座の前に立ち、「父よ、わたしはこの魂の罪をわたし自身に負います。その罪は彼が負うままにされれば、死にあたるものですが、彼が悔い改めるなら許して下さい。わたしの血は彼をすべての罪から清めます。わたしはわたしの生命を世界中の罪のために与えました」と言っておられる。(教会への証 6 巻 230, 231)

## 自発的な犠牲

「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだと精神をもって、神の栄光をあらわしなさい。」(コリント第一 6:20 英語訳)

キリストはわたしたちの救いの働きをどれほど熱心に遂行されたことであろうか。ご自分のしみのない義の功績を 信じるすべての悔い改めた罪人に着せることによって、墮落した人間に価値を与えようとされた時に、このお方の命はなんという献身をあらわしたことであろうか。どれほど疲れを忘れて働かれたことであろうか。宮の中で、会堂の中で、町々の通りで、広場で、仕事場で、海辺で、丘で、このお方は福音を宣べ伝え、病人をいやされた。ご自身のものをすべて与えられたが、それはご自分が贖いの恵みの計画を遂行することができるためであった。

キリストはこの大いなる犠牲を払う義務はなかった。このお方はご自分の律法の違反者に下される刑罰を負うと、自発的にご自身に誓われたのである。このお方の愛がその唯一の義務であり、つぶやくことなく、救いの計画にかかわるあらゆる苦痛を忍び、あらゆる侮辱的な行為を歓迎された。

キリストの生涯は無我の奉仕の生涯であった。そしてこのお方の生涯がわたしたちの教科書である。わたしたちは、このお方が始められた働きを、前進させなければならない。自分の前にこのお方の骨折りと犠牲の生涯があるのに、キリストのみ名を公言する者が、自己を否定し、十字架を負ってこのお方に従うことをためらうことができるであろうか。わたしたちが純潔と聖潔と完全の高さに上げていただくことができるようにとキリストはもっとも低い深みにまで、へりくだられた。わたしたちの非常に貧しい魂にご自分のあふれるばかりの富を注ぐことができるようにとご自身は貧しくなられた。十字架の辱めを耐えられたがそれはわたしたちに平安と休息と喜びを与え、わたしたちをご自分の御座の栄光にあずかる者とするためであった。……

わたしたちは、神があがなわれたすべての者、このお方が清められた深い愛情、聖化と聖潔に至るまで保つようと、このお方が買われた身体を、このお方に返しすべきではないだろうか。……

真のキリスト教は全人格による愛を放散する。神が民に立つようと命じられるどの場でも堅く立つことができるように、体のあらゆる重要な箇所、すなわち頭脳、心臓、人を手助けする手足にこの愛は触れる。……わたしたちは、わたしたちの神なる主に似たものであることを示すことができる。わたしたちは靈的生涯の科学を知ることができ、このお方の者である自分たちの身体と精神で神に栄光を帰すことができる。(ビュー・アソド・ハラルド 1902年4月4日)

2月7日

## 死の力を破る

「わたしは彼らを陰府の力からあがなう。わたしは彼らを死からあがなう。死よ、わたしはおまえの災いとなる。陰府よ、わたしはおまえの滅びとなる。」(ホセア 13:14 英語訳)

全天は、自分たちの愛する司令官が世から受けた評価にどれほど驚いたことか。……このお方は世を造られたが世は彼を知らずにいた。友人は彼を否定し、拒み、裏切った。このお方は誘惑に激しく襲われ、人間としての激しい苦痛はこのお方の神としての魂を激しくゆすぶった。残酷なむち打ちで荒々しく傷つけられ、手は釘で刺しつらぬかれ、その聖なるこめかみはいばらの冠を被せられた。……キリストの生涯を苦悩と悲しみの続く暗いものとし、ついにはキリストを死に至らせるというのがサタンのたくらんだことであった。……

死という行為によって、キリストは死の力を持っていたサタンを滅ぼしていた。キリストは、アダムの墮落以来、着手すると誓約していた計画を進め、その働きを成し遂げた。罪深い世の犯罪のために死ぬことによって、人間が、不従順の結果、陥っていた状態から、神の戒めに従順な状態へとこの墮落した人間を復帰させた。そしてこのお方が墓という足かせを壊し、死から勝利のよみがえりをなされたときに、「人が死ねば、また生きるでしょうか」という質問に答えられた(ヨブ 14:14)。キリストは、アダムの子がみな服従の生涯によって、罪に打ち勝ち、キリストの血によって買われた不死という嗣業へと、墓からよみがえることを可能にされた。

わたしたちの救いは、神の御子の受けた無限の苦しみによって達成された。このお方の胸はアダムの罪深さが人類にもたらした苦痛や苦悩、痛みを受け入れた。キリストのかかとは、このお方の人性が苦しんだ時、本当に砕かれ、人間が神に負った莫大な負債を支払うことを約束した時、ご自分が創造した者にかつて、のしかかったよりもはるかに重苦しい悲しみが、その魂を圧迫した。(原稿 75, 1886 年)

「人が死ねば、また生きるでしょうか」という質問は答えられている。……人間の形をとった神が福音を通じて光に命と不死をもたらしている。キリストは死ぬことにより、ご自分を信じるすべての者のために永遠の命を確保された。(教会への証 6 巻 230, 231)

## 天の法廷での友

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しばむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。」(ペテロ第一 1:3, 4)

この生き生きとした希望が、初期教会の弟子たちに与えられた時ほど、現代では、わたしたちに、確信と喜びを与えないのは何か理由があるのだろうか。キリストはヨセフの新しい墓に閉じ込められることなく、よみがえり、天に昇られたので、わたしたちは自分の信仰を行動に移さねばならないが、それはわたしたちが生き生きとした希望を持っていることを世が見ることのできるためである。……

わたしたちの希望は根拠があり、わたしたちの嗣業は朽ちるものではなく、想像の産物でもない。(ビュー・アード・ワールド 1889年8月6日)

わたしたちは、聖書の中でキリストの死からのよみがえりについて読み、それを信じるけれども、そのことを行動にあらわしているだろうか。わたしたちは、イエスが生きておられる救い主であって、大きな石でふさがれたヨセフの新しい墓の中におられるのではなく、死からよみがえり、天に昇られた……ということ信じているのだろうか。このお方は、天の法廷でわたしたちの裁判に対して、わたしたちのために嘆願をするためにそこにおられる。わたしたちには天の法廷で友が必要であり、わたしたちの弁護士、仲保者となってくれるお方が必要なので、彼はそこにおられる。だから、このことを喜ぼうではないか。わたしたちには神を讃美する理由が数えられないほどある。

多くの人は自分の感情で自分の宗教に関する状態を判断するが、これは安全な基準ではない。わたしたちのクリスチャン生活は自分の感情にかかっているのではなく、わたしたちが天からのものを正しくつかむことにかかっている。わたしたちは、神のみ言葉を、神が語られたものとして信じなければならぬ。キリストをこのお方の言葉通りに受け入れ、このお方がみ父をあらわすために来られたことを信じ、み父は、キリストの内にあらわされているように、わたしたちの友であり、わたしたちが滅びることを望んではおられないということ信じなければならぬ。さもなければ、このお方はわたしたちの犠牲として死ぬためにご自分の御子をお与えになることは決してなかったのである。カルバリーの十字架は、わたしたち一人一人に対して、わたしたちが来たるべき世ばかりでなく、この世でも幸福であることを神が望んでおられることについての永遠の堅い約束である。(ビュー・アード・ワールド 1892年3月8日)

キリストの死は、このお方のあわれみを拒む者に、あわれみの混ざらない神の憤りと判決をもたらす。これは小羊の憤りである。しかしキリストの死はこのお方を受け入れ、信じるすべての者にとって希望であり永遠の命である。(牧師と福音宣伝者への証 139)

2月9日

## あがめられた客

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示録 3:20)

心の扉を開いて、イエスを受け入れる者はみな、このお方をあがめられた客として受け入れている。(ビュー・アノド・ワルド 1885年11月24日)

イエスは完全な型であるから、自己を喜ばせ、自分自身の方法を行なおうとする代わりに、このお方のかたちを反映するよう努力しよう。イエスは親切で礼儀正しく、思いやり深く、優しい。わたしたちは、これらの点に関してこのお方のようであろうか。わたしたちは自分の生活をよい働きでかぐわしいものにしようと努力しているであろうか。……

わたしたちが単に信仰を表明するのは十分ではなく、名ばかりの同意以上のものが必要である。イエスの内に真の知識、本物の経験があるように、真理の原則の中に真の知識、本物の経験がなければならない。わたしたちが真の知識、本物の経験の力を知り、それらを生きた現実にするのができるようにと、聖霊が、これらの原則をはっきりとした良心の強い光の中に持ち込みつつ、心の内に働かなければならない。……

神は、御子をこのお方がご自分を信じるすべての者の品性を形造る型とすることによって、御子に栄誉を与えられた。神はキリストについての事柄を取り上げ、それをわたしたちにあらわされるが、それは、わたしたちがキリストの気質をとらえ、このお方に似たものとなることができるためである。……

わたしたちが直面する障害、挑発、苦難は、のろいではなく、わたしたちの人生の最も大きな祝福をわたしたちに立証する。なぜなら最も気品のある品性は苦難と試練のただ中で建設されるからである。抵抗したあらゆる誘惑、勇敢に負ったあらゆる試練は、わたしたちに新しい経験をさせ品性建設の働きにおいて、わたしたちを前進させる。わたしたちにはサタンの働きについてのより良い知識と、神の恵みによってサタンを打ち負かすためのわたしたち自身の力についてのより良い知識がある。

イエスは世の光であった。……そのご臨在の陽光の下を歩み、わたしたちが形造っている快活さと感謝の気持ち、寛容、愛という金の糸を品性の中に織り込むのは、わたしたちの特権である。わたしたちはこのようにして、日々自分に訪れるすべての不機嫌やいらだちのただ中で、神の恵みの力を示し、天からの光を反映することができる。(同上 1886年2月21日)

## わたしたちの確かな土台

「なぜなら、すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである。この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事がどんなものであるかを、ためすであろう。」(コリント第一 3:11-13)

火が金や銀や宝石と木やわらや切り株との違いを明らかにするように、審判の日は、キリストに似せて形造られた品性と、利己的な心のさまに形造られた品性との違いを示して、品性を試すであろう。あらゆる利己心、あらゆる偽りの宗教は、その時あるがままにあらわれる。価値のない材料は燃え尽きるが、真の単純なへりくだった信仰という金は決してその価値を失うことはない。それは決して燃え尽きることがない。それは不滅だからである。(SDA パイブルマンナリ- [E・G・初作・コメント] 6巻 1087, 1088)

だれでも自分が選ぶとおりの人物になることができる。品性は教育を受けることによって得られるものではなく、富を集め、世的な名誉を受けることによって得られるものでもない。品性は、誰か他の人にわたしたちのための人生の戦いを戦わせて得られるものではなく、そのために努力し働き、戦わなければならないものであって、目的と意志と決心を要する。神が喜ばれる品性を形成するためには、たゆまぬ努力が要求される。わたしたちの名が生命の書に記録されているということは……闇の力にたゆまず抵抗しているということである。全世界に賞賛の声が鳴りわたるよりは、天のみ使いたちの中で不滅の者となり、生命の書にわたしたちの名が記録される方がもっと価値があるのではないだろうか。(ビュー・アクト・ハラルド 1886年12月21日)

この地上でわたしたちに与えられている猶予期間内に、わたしたちは、全地の審判者の点検を受けるための建物をそれぞれに建てている。この働きは、わたしたちの品性の形成であって、わたしたちの生活上のあらゆる行動は、その建物の石であり、あらゆる能力は働き人であって、打たれる一撃はすべて、善か悪のためである。靈感の言葉はわたしたちに、わたしたちがどのように建てるかに注意し、わたしたちの土台が確かであることを調べるようにと警告している。もしもわたしたちが堅固な岩、純潔で気高く正直な行為の上に建てるなら、その建物は美しく均整がとれて建てられ、聖霊が宿るのにふさわしい宮となるであろう。(ユース・イン・ストラクター 1897年6月10日)

2月11日

## どちらの旗印の下にいるか

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」(マタイ 6:24)

わたしたちの世界にいる各々一人一人が、二つの旗印のうち一つの下に配置される。すなわち、インマヌエルの君の血染めの旗印の下にいる選ばれた忠実な者たちか、もしくはその他すべてのサタンの旗の下にいる者たちのいずれかである。……

闇の権力との間にはいかなる妥協もあつてはならない。わたしたちは、各々自分の立場をとらなければならない。もしわたしたちが闇の君、すなわち蛇に対して恨みを持つ関係になければ、彼の支配力がわたしたちとわたしたちのすべての力を囲い込んでしまうのである。彼のとげがわたしたちの心のうちにある。自らを命の君の血染めの旗印の下に置くすべての人々は、その後サタンを敵とみなし、そして神の御力のうちに、命がけの敵としてサタンに対抗するのである。彼らは救いのかぶとをかぶり、神のみ言葉である御霊の剣をとる。そして彼らが優勢に立つために何をなすのであろうか。「絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけ」るのである(エペソ 6:18)……

わたしたちは、すばやく危険を見極めるべきである。わたしたちは罪の憎むべき性質を見抜き、それを魂から追放すべきである。み言葉を行なう者たちは、イエスのうちに強さがあり、それが信仰によって自分たち自身のものになるということを知っている。彼らは神がお受け入れになる義をまとっている。なぜなら、それはキリストの義だからである。この神の武具を身にまとい、天の完全武装をして、彼らは首尾よく蛇の策略に抵抗するのである。一人として一瞬たりとも魂が敗北することはない。……永遠の関心事には、他のすべての事業に勝って最優先するだけの重要性がある。「わたしは救われるために何をしたら良いでしょうか」というのが、今わたしたちにとって、最も重大で厳粛な問いとなるべきである。(手紙 30a, 1892年)

わたしはすべての人が人間のための神のすばらしい働きの真価を認めることができるならと願う。墮落した天使たちのための贖罪はない。しかし、墮落した人間のためには、完全で十分な捧げ物がささげられたのである。それは、このお方によって神に来る者たちがすべて極限まで救われるためである。(同上)

神はご自分のすべての子らのうちに、ご自分のひとり子のかたちをご覧になる。このお方はどんな言葉にも言い尽くせない大きな愛をもって彼らをご覧になる。このお方は、ご自分の愛のみ腕に彼らを抱かれる。主はご自分の民に歓喜される。(同上)

## 計り知れない宝

「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。」(マタイ 13:45, 46)

キリストが天の王国を高価な真珠に譬えられたとき、このお方はすべての魂がその真珠を他の何物にも勝って評価するように導こうと望んでおられた。真珠を我が物とすること、すなわちキリストを個人的な救い主として我が物とすることを意味する象徴には最高の富がある。それは、すべての地上の宝に勝る宝である。  
……

よい真珠を求めている人、そしていつも求めている人たちがいる。しかし、彼らは自分たちの悪習慣を完全に放棄しようとしない。彼らは、キリストが自分たちのうちに住んでくださることができるようにと自己に死ぬことをしないのである。そのために、彼らは尊い真珠を見出すことができない。……彼らは決して、魂のうちに平安と調和を持つということがどういうことかを知ることがないのである。なぜなら完全に自己を明け渡さない限り、休息も、喜びもないからである。ほとんどクリスチャンであるが、完全にクリスチャンではないために、彼らは天の王国に近いようであるが、しかしそこに入ることはできないのである。ほとんど救われているが完全に救われてはいないということは、ほとんど失われているということではなく、完全に失われているということである。……

たとえの中で、商人は、その高価な真珠を獲得するために自分の持っていたものを売ったと言われている。これは、真理を非常に高く評価し、それを自分のものとするためには自分の持っているものをすべて放棄する人々を美しく象徴している。彼らは神のひとり子の犠牲によって人のために提供された救いを信仰によってつかむのである。純白な真珠のように、キリストの義には、欠陥も、過ちも、しみもない。人のどんなわざも、神のみ言葉の偉大で尊い真理を改良することはできない。それらは真理と過ちの入り交じったものではない。それらには欠点がないのである。……

キリストは真心からご自分の許に来るすべての人々を受け入れようとしておられる。しかし、このお方は、どんな見せかけも偽善もひとかけらとして容認なさることはない。このお方がわたしたちの唯一の希望である。このお方がわたしたちのアルパでありオメガである。このお方がわたしたちの日であり、わたしたちの盾であり、わたしたちの知恵であり、わたしたちの聖化であり、わたしたちの義であられる。このお方の御力によってのみ、わたしたちは日毎に神の愛のうちに守っていただくことができるのである。……

救いは血をもって買われた計り知れない宝であり、高価な真珠である。それを探し出し、発見することができる。しかし、それを本当に見つけ出す人はみな、それを買うために自分が持っているものをすべて売り払うのである。(原稿 154, 1898年)

2月13日

## 豊かに許される

「悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。」(イザヤ 55:7)

多くの人々が、キリストが自分たちの仲保者として天父のみ前で嘆願してくださっているという生きた保証によって確信して行動しない。キリストはわたしたちの必要をご自分の必要とみなしてこられた。そして、このお方はわたしたちの弱さ一つ一つの特有な必要を満たすことができになるのである。このお方が地上で生きておられた間、このお方は哀願者、また熱心な嘆願者としての態度を取っておられた。御父の御手より、新たな力が与えられるように求められたのであるが、それはご自分が活力を得て、回復し、人類に与えるための励ましの言葉と慰めの教訓を持って出て行くことができになるためであった。このお方のみ言葉はすべての魂を義務に備えて奮い立たせ、すべての魂を試練に備えて強めるのであった。

キリストが人性にあつて、試練と誘惑に耐えることができるために、ご自分の天父から力を求められたように、わたしたちも同様にしなければならない。わたしたちは罪のない神の御子の模範に従わなければならない。わたしたちは毎日に、あらゆる力の源であるお方から、助けと恵みと力を必要としている。わたしたちは自分の無力な魂を、あらゆる危急時にわたしたちを助ける用意のあるお方にお委ねしなければならない。わたしたちはあまりにもしばしば主を忘れる。自己が衝動に道を譲る。そしてわたしたちは、獲得できたはずの勝利を逸するのである。

もしわたしたちが打ち負かされてしまったならば、一刻の猶予もせずに悔い改めよう。そして、わたしたちを有利な立場に置く許しを受け入れよう。もしわたしたちが悔い改め、信じるならば、神からの清めの力が私たちのものとなる。このお方の救いの恵みは無償で提供される。このお方の許しはそれを受け入れるすべての人に与えられるのである。……

神は、もし犯された悪が悔い改められるならば、いつも告白を受け入れてくださる。わたしたちの天父は「……わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない。むしろ悪人が、その道を離れて生きるのを喜ぶ」と宣言しておられる(エゼキエル 33:11)。すべての悔い改めた罪人をめぐって、神の御使たちは喜びの歌をもって歓喜する。一人として罪人が失われる必要はない。救いの恵みという賜物は十分に、無償で与えられているのである。……

わたしたちは準備の時代に生きている。わたしたちは神の宝庫から十分な神の恵みの供給を受けなければならない。主は毎日の需要に備えてきてくださったのである。(ビュー・アノ・ハラド 1906年5月31日)

## キリストの義をまとして

「不法をゆるされ、罪をおおわれた人たちは、さいわいである。罪を主に認められない人は、さいわいである。」(ローマ4:7, 8)

わたしたちが罪人であったときでさえ、わたしたちの贖い主がわたしたちのために何をしてきてくださったかを考えるとき、わたしたちの心が最も完全な信頼をもってこのお方に向けられるように。信仰によって、わたしたちはこのお方の愛に憩うことができる。このお方は「父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない」と仰せになる(ヨハネ6:37)。

神のみ前に罪深い衣をまとして立ち、このお方の目がわたしたちの生活のすべての秘密を読み取られるということは恐ろしいことであろう。しかし、キリストの犠牲の効力によって、わたしたちは、神のみ前に純潔でしみなく立つことができる。わたしたちの罪は贖われ、許されるのである。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(ヨハネ第一1:9)。贖われた罪人はキリストの義の衣をまとい、救い主の功績によって完全にされて、罪を憎まれる神のご臨在のうちに立つことができる。(レビュー・アンド・ヘルド 1910年5月5日)

キリストの御名を信じる信仰によってのみ、罪人は救われることができる。……キリストを信じる信仰は生来のわざではない。それは人間の思いに働かれる神のわざであり聖霊によって、魂そのもののうちに働かれるのである。聖霊は、キリストが天父を表されたように、キリストを表すお方である。信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見えていない事実を確認することである。その義認し、聖化する力のゆえに、信仰は人が科学と呼ぶものを凌(しの)いでいる。それは永遠の現実の科学である。人間の科学はしばしば人を惑わし、誤り導くものである。しかし天の科学は決して誤り導くことがない。それは非常に単純で子供でも理解できるが、なお最も学識のある人物でも説明することができないのである。それは説明できないものであり、計り知れないものであり、人間のあらゆる表現を越えている。(同上1904年11月3日)

救い主は人の子らに対して、何という筆舌に尽くしがたい愛を表してこられたことであろう!このお方は罪の刻印を取り去って下さるばかりではなく、魂を清めて純潔にし、それをご自身の義の衣でまとしてくださった。それはしみのない、天の織機で織られたものである。このお方は罪人からのろいを取り除いてくださるばかりでなく、彼をご自身と一つになるようにして下さり、彼の上にご自分の明るい義の光線を映して下さるのである。彼は天の宇宙によって歓迎され、神の愛しいひとり子のうちに受け入れられる。墮落した人類は、悔い改めと信仰によって、何という栄光を神にお返しすることができることであろう。(同上1899年5月23日)

2月15日

## 十字架の日光の中で

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」(ヘブル 12:2)

十字架はイエスを信じる魂に、死ではなく命を語る。カルバリーの十字架より輝く、尊い命を与える光線を歓迎なさい。祝福を求めて手を伸ばし、祝福を得ると信じなさい。……十字架の影を歩んではならない。涙を流したり、悲嘆にくれたり、悲哀を表現してはならない。そうではなく、あなたの魂が希望を持ち、喜ぶようにと励ましなさい。十字架は生ける救い主へと上方を指し示している。このお方はあなたの仲保者であり、そしてあなたのために嘆願しておられるのである。……あなたが深い影のうちにいるとすれば、それはサタンが自分の身を、あなたと義の太陽の明るい光線との間に差し挟んできたからである。……

わたしは実に、十字架の影の下に停止していた。わたしが過去数ヶ月の間苦しんできたほど、意気消沈し、圧倒されて、苦しむということはわたしにとって珍しいことであった。わたしは自分自身の魂を軽々しく扱ったり、またそうすることによってわたしの救い主を軽々しく扱ったりするところを見つけれたくはない。わたしは自分が自分の教えを実際に実行し、このお方の救いを求めてこのお方を信じ、このお方の恵みと、義と、平安と愛とを求めて、わたしの無力な魂をイエスに委ねるのでなければ、イエスが墓からよみがえられて、またこのお方が高きところに上げられ、天父の前でわたしたちのためにとりなしをするために生きておられることを教えようとは思わない。

わたしはわたしの感情的な気分がどう変わろうと関係なく、このお方に信頼しなければならぬ。わたしはわたしを闇の中から、このお方の驚くべきみ光に導きいれてくださったお方をほめ讃えなければならぬ。わたしの心はこのお方の愛と恵み深いいつくしみとを眺めて、わたしの救い主であられるキリストに定着していなければならぬ。わたしは、時折このお方を信頼するのではなく、常に信頼しなければならぬ。それは、わたしをご自分の尊い血で買い取ってくださったお方に宿る結果がどういふものであるかを表すことができるためである。わたしたちは、不変の信仰を持つために約束を信じることを学ばなくてはならない。……

カルバリーの十字架の日光のうちに生きよう。これ以上、悲しみをつぶやくことによって、影にとどまるのはやめよう。なぜなら、これはただ私たちの問題を深刻にするばかりだからである。わたしたちが谷を歩いているときでさえ、わたしたちが信頼して歩むとき、わたしたちが山頂を歩いているときと同様、キリストが私たちと共にいてくださるということを決して忘れないようにしましょう。(原稿 61, 1895年)

## キリストのくびぎの下で

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびぎを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:28, 29)

わたしたちの救い主は、最も厳しい屈辱によって人類を買い取ってくださった。……このお方は、狭い門へと導く唯一の道をわたしたちに指し示される。この門は細い道へと続き、その向こうには、広く心地よい牧場が広がっている。このお方は道を一步ごとに示してきてくださった。そのためにだれ一人として間違いを犯す必要はない。このお方はまさにわたしたちが何をすべきかを教えてくださる。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびぎを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:28, 29)。これが罪人の救われ得る唯一の道である。キリストはだれ一人として自分自身の力では、この命令に従うことはできないということをご存知であったので、わたしたちに戸惑ったり、怖じけたりしてはならない、そうではなく、わたしたちがご自分の強さに信頼して、ご自分の許に来るならば、ご自分に何がおできになるかを覚えるようにとお命じになったのであった。このお方は、あなたの贖い主であるわたしとくびぎを共にするならば、わたしはあなたの強さとなり、あなたの力となる、と仰せになる。

キリストの招きに伴った祝福は、キリストのくびぎを負う人々だけが、悟り、享受することができる。この招きを受け入れて、あなたは自分の共鳴と自分の愛情を世から引き上げて、それらをあなたが神との緊密な交流と交わりという祝福を享受することのできる場所に置くのである。キリストの許に来ることによって、あなたは、自分の利害をこのお方の利害に結びつけるのである。

主はご自分のみ言葉に従うすべての魂が、ご自分の喜び、ご自分の平安、そしてご自分の絶えざる保護の力を持つことをお定めになった。そのような男女は、彼らが祈りのうちにこのお方のみ前にひざまずくときばかりでなく、生活の義務を行っているときにも、いつもこのお方に近くおらせられるのである。このお方は彼らのためにご自分と共に住む場所を用意してこられた。そこでは、命があらゆる不潔さや、あらゆる麗しくないものから清められている。この破られることのない主との交わりによって、彼らは自分たちの生涯の働きにおいて、このお方の共作者とされるのである。……

このお方はわたしたちに、わたしの許へ来なさいと招いておられる。わたしのくびぎを負いなさい。わたしは、わたしがあなたの前になしてきた以外のことを、あなたにするようにとは要求しない。わたしがあなたに命じるのは、ただわたしの模範に従ってくることである。わたしが示してきた道に歩みなさい。あなたの足をわたしの足跡に置きなさい。(ビュー・アッド・ハルッド 1900年10月23日)

2月17日

## 唯一の模範

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

もしわたしたちが一瞬でも真昼に輝く太陽を見るならば、わたしたちの目を転じたとき、太陽の残像が自分の眺めるすべての物の上に現れる。イエスを眺めたときもこのようになる。わたしたちが眺めるすべてのものに、このお方の姿、すなわち義の太陽が反射する。わたしたちは、これ以外のものを見ることも、これ以外のことを語ることもできない。このお方のかたちが魂の目に焼き付けられ、それがわたしたちの日常生活のすべての部分に影響し、わたしたちのすべての性質を和らげ、鎮めるのである。眺めることによって、わたしたちは神に似た姿、すなわちキリストに似た姿に同化させられる。わたしたちが交わるすべての人に、このお方の明るく快活な義の光線が反射するのである。(牧師への証 388, 389)

イエスは、わたしたちがそうなるべき完全な模範であられる。このお方はご自分の天父の律法の厳密な遵守者であられた。それでいてなお、このお方は完全な自由のうちに行動された。このお方は熱心な人のもつあらゆる熱情を持っておられたが、なお、静かで、沈着で、冷静なお方であった。このお方は、世の通俗的な事柄を超越しておられたが、ご自身を社会から遮断してしまわれることはなかった。このお方は取税人や罪人たちと食事を共になさり、小さな子供たちと遊ばれ、そして彼らをご自分の腕の中に抱かれて、彼らを祝福なさったのである。このお方は婚宴に臨席されることによって婚宴を栄誉あるものとなさった。このお方はラザロの墓で涙を流された。このお方は自然の中にある美を愛し、神の御目には人工的な見せびらかしに勝る自然の単純さの価値を警えるために、谷のゆりをお用いになった。このお方は最も崇高な真理を説明するために、農夫という職業をお用いになったのであった。……

このお方の熱心さが感情に、あるいはこのお方の一貫性が利己的なたくなさに低落してしまうことはなかった。このお方の慈善には弱さの、またこのお方の同情には感傷の匂いはなかった。このお方は、子供の無邪気さや単純さを男らしい強さと、また神に対する完全な忘我の献身を人に対する優しい愛と結び付けられた。このお方には従わせる尊厳と共にへりくだりの人をひきつける恵みがあった。このお方は不屈の堅固さと共に優しさを表された。わたしたちが毎日、この完全で欠点のないご品性と緊密に結びついて生きることができるよう。(手紙 66, 1878年)

わたしたちは従うべき六つの模範があるのでもなく、五つの模範があるのでもない。わたしたちには一つしか模範はない。そしてそれはイエス・キリストなのである。(教会への証 9巻 181)

## キリストのうちに宿る

「わたしにつながっていなさい(わたしのうちに宿っていなさい)。そうすれば、わたしはあなたがたとつながりましょう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながってなければ実を結ぶことができない。」(ヨハネ 15:4)

必要とされているのは、キリストとの気まぐれな接触ではなく、このお方と共に宿ることである。このお方はあなたがご自分と共に宿るようにと召しておられる。このお方はあなたに、時々熱心に主を求めることによって実現されるが、あなたが日常の一般的な義務に携わるときには過ぎ去ってしまうようなつかの間の祝福を提供してはおられない。あなたがキリストと共に宿ることによって、すべての必要な義務は軽くなる。なぜなら、このお方はすべての重荷の重みを担われるからである。このお方はあなたがご自分と共に宿るための備えをしてこられた。これは、あなたが宿っておられるキリストを自覚しているべきこと、またあなたが絶えず、キリストと共におり、そこで自分の思いが励まされ、強められることを意味する。……

今日の多くの自称キリスト者たちのように、キリストの外にいてはならない。「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながりましょう」ということは成し得ることである。もしわたしたちにそれができないのであれば、この招きは与えられなかったはずである。わたしたちの救い主であられるイエスは、絶えずあなたをご自分の聖霊によって引き寄せ、あなたがキリストと共に宿るようにとあなたの思いに働きかけておられる。……このお方が与えてくださる祝福はすべてあなた自身の行動とつながっている。キリストが拒まれるのであろうか。このお方は「父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない」と仰せになる(ヨハネ 6:37)。別の種類の人々について、このお方は「しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのものとこようともしない」と仰せになる(ヨハネ 5:40)。

あなたは、またわたしは恵み深い「わたしの許に来なさい」との招きを完全に理解しているであろうか。このお方は「わたしと共に宿っていなさい」ではなく、「わたしのうちに宿っていなさい」と仰せになる。「わたしの招きを理解しなさい。わたしと共にとどまるためにわたしの許へ来なさい」。このお方はご自分に結びついているすべての祝福を、命を求めてご自分の許へ来るすべての人々に惜しみなくお与えになる。このお方には、あなたが熱心な祈りのうちに主を求めるときにあなたが感じるつかの間の祝福より良いものがある。キリストと共に一つの言葉を持っているということは、桶の一滴にしか過ぎない。あなたには、あなたが生活上の義務に携わるときには持続しないつかの間の特権の代わりに、このお方の不変のご臨在という特権があなたにあるのである。……不安や困惑、わずらいがあなたをキリストから追い払ってしまうのであろうか。わたしたちは、仕事場や、畑や、市場にいるときに、神により頼む度合いが減ってしまうのであろうか。……どこにいても主イエスはあなたと共に宿り、あなたはこのお方と共に宿るのである。(原稿 194, 1898 年)

2月19日

## キリストと一つ

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5)

キリストが持つておられるご自分の信じる民とのつながりは、他の譬えでは表せないほど、この譬えでよく表されている。(ビュー・アソド・ハルド 1900年9月18日)

キリストを信仰によって受け入れる人はすべて、このお方と一つになる。枝はぶどうの木に縛り付けられるのではない。それらが何か人工的に取り付ける機械的な工程によってくつつけられるのではない。それらは、ちょうどその一部となるべく、ぶどうの木と結合するのである。それらはぶどうの木の根から養分を受ける。信仰によってキリストを受け入れる人々も原則と行動においてこのお方と一つになるのである。彼らはこのお方に結合し、そして彼らの生きる命は神の御子の命なのである。彼らは自分たちの命を命であられるお方から得る。

バプテスマは、何度も何度も繰り返されるかもしれないが、しかしそれ自体には、人の心を変える力はない。心はキリストの心と結合し、意志はこのお方の意志に没入し、思いはこのお方の思いと一つになり、思想はこのお方に捕らえられなければならない。……新しくされた人には、キリストとの生きたつながりがある。枝がその栄養を親木から得、そしてこのゆえに枝が多くの実をみのらせるように、真の信者もキリストと結合し、自分の生涯において御霊の実を表すのである。枝はぶどうの木と一つになる。嵐が来てもそれを運び去ることはない。霜もその生きた属性を破壊することはできない。何ものもそれをぶどうの木から引き離すことはできない。それは生きた枝であり、それはぶどうの実をみのらせるのである。信者も同様である。よい言葉、よい行動によって、彼はキリストのご品性を表す。……

キリストはわたしたちの全生涯がご自分との破られることのない交わりとなるための手段を提供してこられた。しかしキリストの不変のご臨在を自覚することができるのは、生きた信仰を通してのみである。……

すべての人は、自分たちのものとする特権のある完全を臆想し、自問してみよう。わたしの意志はキリストのご意志に没入しているであろうか。生けるぶどうの木の満ち満ちた豊かさ、すなわちこのお方のいつくしみ、このお方のあわれみ、このお方の同情と愛は、わたしの生活と品性に見られるであろうか。(同上)

## わたしたちの名に忠実に

『彼におる』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。』  
(ヨハネ第一 2:6)

わたしたちはクリスチャンの名を帯びている。わたしたちはこの名に忠実であろう。クリスチャンであるということは、キリストのようになることを意味している。それは、自己否定においてこのお方に従い、このお方の愛の御旗を高く掲げ、無私の言葉と行いによってこのお方に誉れを帰すことを意味している。真のクリスチャンの生涯には、自己というものが何もない。自己は死んでいるのである。キリストがこの地上で送られた生涯には、利己心というものがなかった。わたしたちの性質を取られ、このお方は完全に他人の益のために献身した生涯を送られた。……言葉と行動において、キリストに従う者たちは、純潔で真実であるべきである。この世において、すなわちこの悪と墮落の世において、クリスチャンたちはキリストの特性を表さなければならない。すべて彼らのなすこと語ることには、利己心があってはならない。……

偉大な使徒は異邦人たちに、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」と述べた(ガラテヤ 2:20)。信仰によってパウロはキリストの恵みを自分のものとし、この恵みは彼の魂の必要を満たした。信仰によって彼は天の賜物を受けた。そして光を待ち望んでいる魂たちにそれを与えたのであった。これがわたしたちの必要としている経験である。……この信仰を求めて祈りなさい。そのために奮闘しなさい。神がそれをあなたに与えてくださると信じなさい。……

「わたしは柔和で心のへりくだった者である」と仰せになったお方から学びなさい(マタイ 11:29)。このお方から学ぶとき、あなたは休息を見出す。日毎にあなたは神の事柄における経験を得、日毎にこのお方の救いの偉大さと、このお方との結合の栄光を悟るのである。あなたは絶えず、いかにしてよりよくキリストのように生きるかを学び、そして絶えず、あなたはますます救い主のように成長するのである。

もしわたしたちが自己に死ぬならば、もしキリストがわたしたちにとって、またわたしたちがこのお方にとってどのような存在となれるかについてより広い観念を持つならば、もしわたしたちが互いにクリスチャンの絆で団結するならば、神はわたしたちを通して、偉大な力をもって働かれる。そのとき、わたしたちは真理を通して、聖化されるのである。わたしたちは本当に、神に選ばれ、このお方の御霊に支配されるようになる。人生における一日一日がわたしたちにとって貴重である。なぜなら、わたしたちはその中にわたしたちに委ねられた賜物を他人の祝福のために用いる機会を見るからである。(ビュー・アンド・ワールド 1907年5月30日)

2月21日

## 神はどれほどわたしたちを愛しておられるか

「わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。」(ヨハネ 17:23)

御父が人類家族のだけれども、このお方が御子を愛されたように愛することがおできになり、またそうして下さるといのは、あまりにもすばらしくて信じがたいようにさえ思える。しかしわたしたちには、このお方がそうして下さるとい保証があり、そしてこの保証はすべての心に喜びをもたらし、最も高尚な敬神を目覚めさせて、口に表すことのできない感謝を呼び起こすべきである。神の愛は不確かなものでも、非現実的なものでもなく、生ける現実なのである。(原稿 31, 1911 年)

全世界の創造主は、ご自分のひとり子を自分の個人的な救い主として信じる者たちを、ご自分が御子を愛されたほどに愛すると申し出ておられる。今ここにおいてさえ、このお方の恵み深い恩寵がこの驚くべき規模で与えられるのである。……このお方が来るべき生涯のためにわたしたちに約束して下さったのと同様に、このお方はこの生涯においてもわたしたちに相当な賜物を与えてくださる。そしてこのお方の恵みの対象として、このお方はわたしたちが自分たちの品性を高尚にし、広くし、そして高めるすべてのものを享受することを望んでおられる。わたしたちを上にある天の宮廷にふさわしいものとするというのが、このお方のご計画なのである。(クリスチャン教育の基礎 234)

キリストと緊密な交わりのうちに生きている人々は、このお方によって、信任の地位に就くようになる。自分の主人のために最善を尽くす僕は、彼がそのご命令に従うことを愛するお方と、近い交わりを持つことが許されるのである。義務を忠実に果たすことによって、わたしたちはキリストと一つになる。なぜなら、神のご命令に従っている人々は自由にこのお方に語ることができるからである。自分の神なる指導者に最も親しく語る者は、このお方の偉大さについて最も高尚な概念を持ち、そしてこのお方のご命令に最も従順な者である。(SDA バイブルメントリ - [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1168)

人の生涯において、神聖なことと世俗のことがなされなければならない。ある者は商売関係のことを、ある者はみ言葉の働きにおいて、またある者はさまざまな取引においてことをなす。しかし、人がキリストに献身し、心と思いと魂と力を尽くして神を愛するとき、彼は全人格をかけて献身し、仕えるのである。……彼は自分の力の所有権と自分自身の所有権とを認める。この献身は彼の全生涯を神聖さで覆い、この神聖さは彼をやさしく、親切で、礼儀正しい者とする。彼のすべての行動は、献身した行動である。……彼はキリストの下におり、天のさらに高い学年のために訓練されつつある。(原稿 21, 1911 年)

## 「神の性質にあずかる者」

「またそれらのものによって、尊く、大いなる約束がわたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロ第二 1:4)

「神の性質にあずかる者」。これが可能であろうか。自分自身では、わたしたちは何一つ良いことをすることができない。それではいったいどのように神性にあずかる者となることができるのであろうか。わたしたちのありのまま、欠乏し無力で、依存したままで、キリストの許へ行くことによってである。このお方はわたしたちが神性にあずかる者となることができるために死なれたのである。このお方は人類に手をさし伸べることができるようにと、ご自身に人性を取られたのであった。このお方はご自分の比類なき愛の黄金の鎖でわたしたちを神の御座に結び付けてくださった。わたしたちは、このお方が勝利なさったように勝利する力を持つのである。

すべての者を、このお方は「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。……わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うてわたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。……」と招いておられる(マタイ 11:28, 29)。わたしたちには、この働きにおいて果たすべき分がある。だれ一人として男も女もこの地上で苦闘することなく、天へ連れて行かれるだろうと考えないようにしなさい。わたしたちには戦うべき戦いがあり、獲得すべき勝利がある。神はわたしたちに「自分の救いの達成に努めなさい」と仰せになる。どのようにしてであろうか。「いっそう従順でいて、恐れおののいて」である、なぜなら、「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神である」からである(ペリピ 2:12, 13)。神が働かれ、そして人も働くのである。……こうしてのみ、わたしたちは神性にあずかる者となることができる。

ここで真の宗教の一貫性がある。わたしたちは、神と調和して働く、神の「同労者」とならなければならない。「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一 3:9)。この譬えは人間の品性を表している。品性において一つ一つ働かれなければならない。毎日神はご自分の建物の建造物を完全にするために働かれる。それは、ご自分のための聖なる宮となることができるためである。人は神と協力しなければならない。それはこのお方の強さのうちに、自らを神が自分になるようにと計画されたものにしようと奮闘し、自分の生活を純潔で高尚な行いで建てることによってである。……

神はわたしたちに一度に一日だけを生きるようにと求めておられる。あなたは、一週間や一ヶ月先を見る必要はない。今日、あなたの最善を尽くしなさい。今日神に誉を帰す方法で、語り、行動しなさい。約束は、「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」である(申命記 33:25)。(ビュー・アズ・ヘルド 1904年4月14日)

2月23日

## 豊かに生きる

「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10:10)

キリストにつながる魂であればだれでも、狭い生涯といったものは存在し得ない。心と思いと魂をもってイエスを愛し、自分自身のように自分の隣人を愛する人々には、自分たちの能力と感化力を用いる広い畑がある。利己的な満足のために用いられるタラントはない。自己は死ななければならない。そのときわたしたちの命はキリストと共に神のうちに隠されるのである。……

主はわたしたちが自分たちの魂の価値を—私たちが理解できる範囲で—キリストがそれらにどれほどの価値を置いておられるかにしたがって、判断をするようにと望んでおられる。……イエスはご自分が人類を永遠の破滅から贖うことができるために死なれたのである。であるから、わたしたちは自分自身を買い取られた財産として守るべきである。「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである」「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一 6:19, 20)。わたしたちの思いと魂と体のすべての能力は主のものである。わたしたちの時間はこのお方に属している。わたしたちは自分自身をこのお方への奉仕を行うために最善の状態にしておくべきである。すなわち、絶えずキリストにつながり、そしてわたしたちがこのお方のうちにあって神の義とされるようにとわたしたちのために支払われた高価な犠牲を日毎に瞑想しているべきである。……

自己を空にし、思いやり深く、良心的な人々は、畏敬の念と最も深いへりくだりを感じることなく、自分の目を生ける救い主であられるキリストに向けてあげることができない。イエスを絶えず眺めることは、魂を神に向かつて生かすものとする。わたしたちはイエスを愛し、このお方を世に遣わして下さった天父を愛するのである。なぜなら、わたしたちは このお方を、恵みと真理に満ちたすばらしい光のうちに見るからである。イエスは「すべての事は父からわたしに任せられています」(マタイ 11:27)。……「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と宣言なさる(マタイ 28:18)。何のためであろうか。それはこのお方が人類に賜物を与え、彼らがこのお方がわたしたちを愛して下さったそのすばらしい愛を知らせるために、自分たちのすべての力を感謝の下に置くことができるためである。……

わたしたちがあらゆる自分たちのタラントを、カルバリーの十字架の光のうちに評価するとき、わたしたちはキリストのために生き、そして自分たちの光が人々の前で輝くようにするので、わたしたちの生涯は決して二度と狭く見えることはなくなる。だれが魂の価値を計ることができるであろうか。(手紙 23, 1890年)

## 責められるところのない者

「それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。」(ピリピ 1:10, 11)

主はご自分の有限な被造物の前に、不可能を提示なさっているのではない。……より高く、純潔で、高尚な命の力を、わたしたちは大いに必要としている。神の民は、聖なる喜びに満ちているべきである。それは、その輝きが彼らから照り出でて、他人の道を明るくするためである。何という力、何という平安、何という喜びを、キリストと結合している魂は持つことができることであろう！神の光輝が、力の源であられるお方と交わる人々に表される。

わたしたちは天の平安、幸福、そして喜びをほとんど知らない。わたしたちはもっと効力を必要としている。わたしたちはキリストから命の水を受ける必要がある。それは、わたしたちのうちで水の井戸となり、わたしたちの感化力の領域に来る人を皆、清新にするためである。……

わたしたちは自分のバプテスマの時に、サタンとその使たちのつながりをすべて断ち切り、そして心と思いと魂を神の王国の拡大の働きに注ぐと誓約したのである。全天は、この目的のために働いている。御父も御子も聖霊も、聖化された人間という器と共に協力すると誓約された。もしわたしたちが自分たちの誓いに忠実であるならば、わたしたちには、天との交わりの戸—人間の手や悪魔の使が閉じることのできない戸—が開かれるのである。……

道徳的、また霊的完全が、キリストの恵みと力を通して、信じるすべての者に約束されている。わたしたちは一歩ごとに、キリストに助けを求めなければならない。このお方は、わたしたちが品性建設において従うべき模範であられる。このお方は言葉ではなく、行動をお求めになって、「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」と仰せになる(マタイ 5:16)。……

キリストが光の源であり、命の泉であられる。……人が純潔にされ、聖化されて、ご自分の助け手となるようにというのがこのお方のご目的である。このお方はわたしたちを神の御座へと導かれ、そしてご自分に捧げるべき祈りをわたしたちにお授けになる。わたしたちがこの祈りを生きるとき、キリストとの緊密な交わりに入れられる。一歩ごとにこのお方の生ける御力に触れるのである。わたしたちのためにこのお方は力強い天使たちを動員しておられるのである。(ビュー・アンド・ワールド 1906年5月17日)

2月25日

## 最も幸福な民

「あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。」(詩篇 16:11)

あなたがイエスと共に歩むとき、あなたが陰のうちを歩まなければならないと考えてはならない。この世で最も幸福な民は、イエスに信頼し、喜んでこのお方のご命令を行う人々である。このお方に従う人々の生涯から、動揺や不満は払いのけられる。……彼らは試練や困難に遭うかもしれないが、しかし彼らの生涯は喜びにあふれている。なぜなら、キリストが彼らの傍らを歩まれ、そしてこのお方のご臨在が彼らの道を明るくしているからである。……

あなたが朝目覚めるとき、あなたの唇に神への讚美をもって起き上がりなさい。そしてあなたが働きに出かけるとき、助けを求める祈りをもって出て行きなさい。……命の木からの一葉を待ちなさい。これがあなたを和らげ、あなたを清新にし、あなたの心を平安と喜びで満たすのである。あなたの思想を救い主に固定させなさい。世の喧騒から離れて、キリストの陰に座しなさい。そのとき、毎日の骨折りや葛藤の騒ぎのただ中で、あなたの力が新たにされるのである。わたしたちは時々座して、いかに、もし人間が自分たちの弱さをご自分の強さに結びつけるならばどのような者となることができるかを示すために、救い主が天から、すなわち神の御座から下ってこられたのかを考えることが、絶対に必要である。神との交わりによって力が新たにされた後、わたしたちは喜びながら、またキリストの愛の日差しをわたしたちが会おう人々の生活にもたらす特権のためにこのお方を讚美しながら自分の道を進んで行くことができるのである。……

天の知的存在者たちは、人間という器と協力しようと待機している。それは世が、人間が神との結合を通してどのようになれるかを見ることができるとためである。体と魂と霊を神の奉仕へ捧げる者たちは、絶えず新しい肉体的、精神的、また霊的な力という天与の恵みを受ける。天の無尽蔵の供給が彼らの思いのままである。キリストは彼らにご自分の生涯の命そのものをお与えになる。聖霊は思いと心のうちで働くためにその最高のエネルギーを注ぎ出して下さる。わたしたちに与えられた恵みによって、わたしたちは、自分たちの品性の欠点とわたしたちの信仰の小ささのゆえに自分たちには不可能と思えた勝利を獲得することができるのである。

自分を奉仕のために主にお捧げするすべての人には、何一つ差し控えられることなく、計り知れない結果を達成するための力が与えられる。(ビュー・アンド・ヘアッド 1911年1月5日)

## 日毎の義務における恵みと尊厳

「その言葉は、はなはだ美しく、彼はことごとく麗しい。」(雅歌 5:16)

キリストがこの地上におられた間のご生涯を研究しなさい。このお方は最も小さく、単純な義務もおろそかにされなかった。完全がこのお方のなされたすべての特徴であった。助けを求めてこのお方を仰ぎなさい。そのとき、あなたは、自分の日常の義務を、永遠の命の冠を求めている者の恵みと尊厳とをもって行うことができるように高められるのである。

わたしたちはキリストのご生涯の偉大さを多く瞑想する。わたしたちはこのお方の成し遂げられた偉業について、またこのお方の働かれた奇跡について、またいかにこのお方が荒れ狂う海を言葉をもって鎮められ、目しいの視力や耳しいの聴力を回復され、死人を命によみがえらせられたかを語る。しかしこのお方が小さい事柄に払われた注意は、このお方の偉大さのさらに大きな証拠でさえある。マルタがもてなすのを手伝うように妹に言いつけて欲しいとこのお方のところへ頼みに来たときに、何と語られたかを聞きなさい。このお方は彼女に家事のわずらいで彼女の魂の平安を煩わせてはならないと仰せになっている。「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」とこのお方は仰せになる(ルカ 10:41, 42)。

疲れきった母親たちが自分の子供たちを祝福してもらおうと連れて来たときに、このお方が語られた言葉を聞いてごらんください。弟子たちは、自分の主人が煩わされるのを嫌がって、女たちを追い返していたが、彼らの主人であられるお方は、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」と仰せになった(マルコ 10:14)。そして彼らをご自分の腕に抱き、彼らを祝福なさった。これらの子供たちの将来が私たちの前に開かれるならば、わたしたちは母親たちが子供たちの思いにこの日の光景を思い起こさせ、救い主の愛に満ちたみ言葉を繰り返しているのを見ることができはざである。……この同じイエスがあなたの救い主なのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1904年4月7日)

この世のどんなに高尚で柔和な人も、キリストの品性のこうごうしい美しさにくらべれば、そのかすかな反映にすぎない。キリストのことを霊に感じてソロモンは「万人にぬきんで……彼はことごとく麗しい」と歌った。……地上における愛の生涯の初めから終わりまで、自己を犠牲にされた贖い主は、神の律法の性格の生きた表現であった。(祝福の山 61)

2月27日

## 勝ち得て余りがある

「わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。」(ローマ 8:37)

イエスがお与えになる御力を通して、わたしたちは「勝ち得て余りがある」。しかし、わたしたちは、この力を作り出すことはできない。ただ神の御霊を通してのみ、わたしたちはそれを受けることができるのである。

わたしたちは、キリストのご性質と、また「人知をはるかに越えた」このお方の愛の奥義をさぐる高い見識が必要である(エペソ 3:19)。わたしたちは温かく親切な義の太陽の光線のうちに生きなければならない。キリストの愛に満ちた同情、このお方の神の恵み、このお方の全能の力の他には、わたしたちが執拗な敵と戦い、わたしたち自身の心の反対を鎮めることができるようにさせるものは何もない。わたしたちの力とは何か。主の喜びである。キリストの愛がわたしたちの心を満たすようにしなさい。そうすればそのとき、このお方がわたしたちのために持っておられる力を受ける準備ができる。

毎日、わたしたちのものである祝福のために神に感謝しよう。もし人間の代理人が、……自分の魂が純潔になるためになされる必要のある働きをなすためには、自分がまったく無力であることを悟って、自らを神のみ前にへりくだらせるなら、またもし彼が自分自身の義を捨てるならば、キリストが彼の心のうちに宿る。このお方は彼を新たに創造する働きを始められる。そして、彼がこのお方のうちで完全になるまで働きを続けてくださるのである。……

キリストのようになるという目的でこのお方を眺めるとき、真理をたずね求める者は神の律法の原則の完全さを見る。そして彼は完全以外では何ものにも満足しなくなる。……しかし、彼は驢い主には、自分のために闘いで勝利を獲得してくださる救いの力があるということを知っている。救い主は、彼が恵みと力を求めて嘆願しに来るときに、彼を強め、助けてくださるのである。(レュー・アード・ハヴド 1904年3月31日)

キリストはご自分の御手のうちにおかれた働きを決してなおざりになさることはない。このお方は断固とした弟子に、ご自分が働いておられる心のゆがみと、罪に汚れた状態と、腐敗とを自覚させて下さる。真に悔いた者は、自己尊大の無益さを学ぶ。イエスを眺めて、自分自身の欠陥のある品性と救い主の完全な品性を比較し、彼はただ一

「わが手に捧げる価なし、ただ汝が十字架により頼まん」と言うのである。(同上)

## すべてにおけるクリスチャンのすべて

「キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。」(コロサイ 3:11)

尊い救い主であられるキリストが、クリスチャンのすべてにおけるすべてであられねばならない。一つ一つの聖なる思想、一つ一つの純潔な願い、一つ一つの信心深い目的は、光であり、真理であり、道であるお方から来る。キリストが真理の御霊によって、このお方の代表者たちのうちに生きられなければならない。……パウロは「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」と言っている(ガラテヤ 2:20)。……

ご自分の愛の力強い衝動に駆られて、このお方は宇宙の中でわたしたちの立場を取られ、そして万物の統治者にご自分を人類家族の代表として扱うようにと懇願された。このお方はご自身をわたしたちの関心と一つにされ、ご自身の胸を死の鞭を受けるためにあらわされ、人間の罪とその刑罰をお受けになり、そして人間に代わって神へ完全な犠牲をお捧げになった。この贖罪の功績によって、このお方には人に完全な義と満ち満ちた救いを提供する権威がおありなのである。このお方を個人的な救い主として信じる人はだれでも滅びることなく、永遠の命をもつのである。(原稿 13, 1892 年)

イエスはご自身の関心を、選ばれ試されたご自分の民と共になさる。このお方は、彼らに関わるすべてのことに個人的に影響をお受けになるお方としてご自身を表された。……さまざま光のうちにご自分の民とのご自分の関係を表された後に、このお方はついに大いなる日には、ご自分がすべての行動をあたかもそれらのご自身になされたかのように裁かれると宣言なさるのである。

このお方がご自分の民に持つておられる同情は比類のないものである。このお方は単に傍観者として、ご自分の民が何に苦しんでいようと無関心なままでおられるのではない。そうではなく、このお方はご自分の関心と悲しみを彼らと一つになさる。もしご自分の民が虐待され、中傷され、侮辱をもって扱われるならば、彼らの苦しみは天の書物にご自身になされたものとして記録されるのである。(同上)

神の子供の特権、祝福が、次の言葉の中で使徒によって表されている。「神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義がいかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである」(コロサイ 1:27)。わたしたちが自分たちの栄光の望みがキリストであられること、わたしたちがこのお方にあって完全であることを悟るとき、わたしたちは口に表すことのできない喜びと満ち満ちた栄光をもって喜ぶのである。(同上)

## 研究 13

わたしたちが信仰の一致に到達するまで



## わたしたちのために 生きておられるキリスト

調査審判は、清めの前の判決であるばかりでなく、神の民を清めるための審判であることを見てきました。

一方、「サタンは自分が神の民に犯させた罪を、正確に知っている」（国と指導者下巻 194）。サタンは、罪人が許されたかどうか、罪が除去されたかどうかは知りません。これは神の記録です。唯一知っているのは、自分が犯させた罪です。そこでサタンは、わたしを許さないなら、この人も許すことはできません、それでは公正ではありませんと訴えます。これは自分を根拠とした判断基準です。一方、神はご自分の判断基準でこの審判を行われます。そして、その基準とは、神の義なのです。

「しかしキリストに従った人々は、罪を犯しはしたけれども、全的に降伏してサタンの手下たちに支配されてはいなかったのである。彼らはその罪を悔い改めて、謙遜と悔恨の念をもって主を求めた」（国と指導者下巻 194）。罪を悲しみ、罪から離れた人々は、全的にサタンに降伏してはいませんでした。しかし、自分の犯した罪を忘れてしまう人はこれできません。

「そして助け主であられるイエスは、彼らのために嘆願されるのである。彼らの忘恩によって最もひどい取り扱いを受けられたかた、また彼らの罪を知るとともに、その悔い改めをも知っておられるかたが言われる。『サタンよ、主はあなたを責めるのだ。わたしはこの人々のために、わたしの生命を与えた。彼らは、わたしのたなごころに彫り刻まれている。…彼らは悔い改めた。そしてわたしは、彼らを赦し受け入れたのである。』」（国と指導者下巻 194,195）。

ダビデの例を見てみましょう。彼は打ち負かされました。しかし、「わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、『わたしのとがを主に告白しよう』と。その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた。」

そのとき、「そのとががゆるされ、その罪がおおい消され」たのでした。

「だれが、神の選ばれた者たち（いと高き者の聖徒たち）を訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである」（ローマ 8:33, 34）。

キリストはわたしたちの罪のために死に渡されましたが、それはわたしたちのためによみがえられるためでした。

「主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである」（ローマ 4:25）。

「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」（ヘブル 7:25）。

そうです、イエス・キリストは今わたしたちの義認のために、生きておられます。調査審判を行っておられるのはこのキリストであり、わたしたちの義は、生きておられるキリストなのです！

「だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」（ヘブル 4:16）。

この特権は、調査審判を通過するすべての人のものです。

次に「平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい」とある通り（エペソ 4:3）、真の一致は聖霊によってもたらされます。これは何を意味するのでしょうか？聖霊の本質は神秘であることを覚えつつ、イエス・キリストがご自分の代表者として約束された聖霊を理解していきましょう。

## 別の助け主

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに戻って来る（I come to you）。もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるのだから、あなたがたも生きるからである。その日には、わたしはわたしの父におり、あなたがたはわたしにおり、また、わたしがあなたがたにおることが、わかるであろう」（ヨハネ 14:16-20）。

キリストがまもなく去られようとしているのを聞いて言いようのない不安をいだいている弟子たちに約束して下さったのが、その不在をうめてくださる慰め主、聖

霊です。ちょうど、それは子供にとっての親のような存在です。親から引き離されていた子供は、親が帰ってきた時にどれほど慰められることでしょう。キリストは弟子たちの心をご存じで、あなたがたを孤児とはしない、あなたがたを慰めのないままにはしないと言われました。しかし、多くの人はこの約束にそれほど関心がありません。その理由をイエスは、聖霊を知らないからだと言われます。あるいは、このお方が来られると困るからです。

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主（仲保者）、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」（ヨハネ第一 2:1）。

「聖霊はキリストの代表者であるが、人間の個性を備えておられないので、これに拘束されない。キリストは、人性の制約を受けておられたので、どこへでもみずから行かれるわけにいかなかった。だから、キリストが父のみもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。そうすれば、場所やキリストとの個人的接触などによる特典はだれにもないのであった。みたまによって、救い主はだれにでも近づかれるのであった。この意味において、主は、天にのぼられなかったとした場合よりも一層近く彼らのそばにおられるのであった」（各時代の希望下巻 153）。

「地上におけるキリストの代表者であられる聖霊がこのお方の昇天の時に、わたしたちの主がこの世につかわされた天来の教師また案内人として前面に出て高められるのは、キリストが十字架上のご自分の死によって可能にされたすべてのことを人の心と生活において現実とならせるためである。この神聖な御霊という賜物は、福音書と新約の手紙の中で列挙されている通り、御霊が彼らに与えるのにふさわしいと思うだけ十分に認められ、祈り求められ、受け入れられるのである。」（ライ・スッチ 15 巻 472）

次にこのお方を「送る」と言われたことが、わたしたちにとって何を意味するのか、み言葉はどのように伝えているかを見ていきます。

「わたしたちに聖霊を賜ることによって、神はわたしたちにご自身を与えて下さるのである」（教会への証 7 巻 273）。

神がご自身を与えて下さるということです。「贖いの価値を悟るためには、その支払われた代価を理解する必要がある。わたしたちは神のいとしいひとり子の命、苦しみ、死についてより広くより深い見解を取るべきである。わたしたちのために払われた犠牲に対する制限された考えにより、多くの人々は贖罪の偉大なみわざに低い評価を下してきた。

人の救いの栄光に満ちた計画は、天父の無限の愛の表れである。『神はその

ひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』。墮落した人類のために死に渡すためにご自分のひとり子を与えることに表された神の愛は、聖天使たちを驚かせた。」(現代の真理 1885年 11月 3日)

聖天使たちを驚かせたこの大きな愛をなかなか理解できない人間のために、キリストは十字架にかかれる前に、人間が理解し、感じることでできる方法でご自分の愛を表してくださいました。ヨハネ 13 章の最初に「世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された」とありますが、その愛は、弟子たちの足を洗うことによって表されました。これは弟子たちにとって決して忘れることのできない衝撃的なことでした。そしてこれは彼らがキリストの愛を理解することができるためでした。しかし、キリストがお与えになる「永遠に共におらせて下さる約束」と「今の必要しか考えない自分」との間の戦いにより、彼らがその愛を十分に理解するには、さらにキリストの約束が必要でした。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう」(ヨハネ 14:26)。

ここで約束されているのは、三人の神格です。父なる神を表すことがおできになるのは、神の御子だけであり、神の御子を表すことがおできになるのは、神の御霊だけです。この三人のお方は神格でなければなりません。

「わたしと父とは一つである」(ヨハネ 10:30)。「わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります」(ヨハネ 17:11)。

「わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります」(ヨハネ 17:22)。

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、…」(ヨハネ 17:21)。「わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり」(ヨハネ 17:23)。

こうして、キリストは御霊をわたしたちに与えて下さることにより、わたしたちと一つになって下さり、御父と一つにして下さいます。しかし、「わたしのいるところにおらせるため」と言われたように(ヨハネ 14:3)、体は別のところにいます。このことから、一つということは、体が一つであるという意味ではないことがわかります。それは天のトリオ、お三方なのです。

この三人のお方からなる唯一の神を理解しましょう。

「神はまた言われた、『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り』。」(創世記 1:26)。御父と御子と御霊は、創造において一つであられました。この一つであられるお方がわたしたちのために来られるのは、わたしたちが伝道において一つになるためです(使徒行伝 1:8 参照)。

また、「主なる神は言われた、『見よ、人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るものとなった。彼は手を伸べ、命の木からも取って食べ、永久に生きるかも知れない』。」(創世記 3:22)。御父と御子と御霊は、罪人の取り扱いにおいても一つであられます。

「わたしはまた主の言われる声を聞いた、『わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか』。」(イザヤ 6:8)。「パウロはひとこと述べて言った、『聖霊はよくも預言者イザヤによって、あなたがたの先祖に語ったものである』(使徒行伝 28:25)。ここでパウロは、イザヤに見せられた幻の中の主をさして、それが御霊だと述べています(イザヤ 6:9, 10 参照)。

この三人のお方が、救いの計画においてご自身を与えて下さり、世の終わりまでわたしたちと共にいて、救いをなし遂げて下さるのです。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:19, 20)。

わたしたちを一つとするために、一つである三人の神格がご自身を与えて下さいます。「主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にあるように」(コリント第二 13:13)。イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう」(ヨハネ 14:23)。その約束が次のみ言葉に集約されているのです。「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう」(ヨハネ 14:16)。わたしたちは、この尊い約束を自分たちのものとして嘆願しないでしょうか？

うたれた弟子たちは、昇天される主の最後の面影を目をこらして見つめました。栄光の雲が彼らの視界からこのお方を受け入れました。それと同時に天使の合唱隊から最高の美しさと喜びに満ちた賛美の調べがただよってきました。

弟子たちがまだ上の方を見つめていると、すばらしい音楽のような響きをもった声が彼らに語りかけました。ふり向くとそこには人のかたちをした二人の天使の姿が見られました。天使たちは弟子たちに、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」(使徒行伝 1:11)。

これらの天使は救い主をこのお方の天の家へと送り届けるために来た天使の群れの中の者でした。残された人々に対する同情と愛のうちに、彼らはこの別れが永遠の別れではないことを保証するためにとどまっていました。

弟子たちがエルサレムに帰ると、人々は驚いて彼らを見ました。彼らの主の裁判と十字架の後、彼らは落胆し、恥じているだろうと思われていました。反対者たちは彼らの顔に悲しみと敗北の表情が見られるだろうと予想していました。ところが予想に反して、喜びと勝利だけが見られました。彼らの顔はこの世のものではない幸福に輝いていました。彼らは望みが裏切られたことを嘆かないで、神さまへの賛美と感謝に満たされていました。

彼らは大喜びでキリストの復活と昇天についてのすばらしい話を語りましたが、その証は多くの人々に信じられました。

弟子たちは将来についてもはやなんの不安もありませんでした。救い主が天におられて、このお方の思いは今も彼らと共にあることがわかっていました。彼らはこのお方が神さまの前にご自分の血の功績をもって嘆願なさっておられることを知っていました。このお方はご自分が贖い代を払った代価の証拠としてご自分の傷ついた御手と御足をみ父にお示しになっていました。

彼らはすべての聖天使たちがこのお方と共に再びおいでになることを知っていました。そして彼らはこの出来事を大きな喜びと切望する期待をもって待ち望んでいました。

## 巻き寿司

### ■材料

#### (具材)

にんじん	1本	べったら漬け	1本
きゅうり	2本	油揚げ	2枚
水	1カップ	塩	小さじ1
昆布だし	小さじ1	しょう油	少々

#### (酢飯)

玄米(炊いたもの)	3合
レモン汁	50cc
塩	小さじ1
粗糖	大さじ1
顆粒昆布だし	小さじ1

### ■作り方

1. 玄米を炊飯器で炊いて、ボールにあげます。
2. にんじん、べったら漬け、きゅうり、油揚げを細切りにします。
3. 鍋に水と塩と顆粒昆布だしを入れて沸かし、にんじんと油揚げを入れて、弱火で煮ます。
4. にんじんが柔らかくなったらバットに引き上げ、べったら漬け、きゅうりと一緒に並べます。
5. レモン汁半分、塩と粗糖と顆粒昆布だしを鍋に入れて火にかけ、粗糖が溶けたら、火を止めて、残りのレモン汁を入れます。
6. 粗熱の取れた玄米に5. のレモン酢をまぜます。
7. すまきの上に寿司用ののりを広げ、奥の2センチくらいをあげて、酢飯をのせます。
8. 具材を真ん中において、手前から巻きすをあげて具材のところまで巻き、巻きすの上からしっかりと押さえます。そこで、奥側の2センチあいているところに、レモン酢をぬります。
9. 巻き終わりが下になるように残りをまいて、もう一度巻きすの上からしっかりと押さえます。
10. 巻き終わったら、食べやすい大きさ(6-8個)に切り分けます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

## 第59話

## 昇天(1)

救い主の地上での働きは終わりました。今、このお方がご自分の天の家に帰る時が来ました。このお方は勝利され、ふたたびご自分の御父のかたわらにあるご自分の光と栄光の御座につかれるのでした。

イエスさまはご自分の昇天の場所としてオリブ山を選ばれました。11人に付き添われて、このお方は山に向かわれました。しかし弟子たちはこれが自分たちの主との最後の面会になることを知りませんでした。彼らが歩いていると、救い主は彼らに別れに際して指示をお与えになりました。彼らを離れる前に、このお方はご自分に従うすべての者にとってとても大切に、貴重な約束をなさいました。

「見よ、わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:20)。



彼らは山頂を越え、ベタニヤの近くに行きました。ここで彼らは立ち止まり、弟子たちは主のまわりに集まりました。このお方が彼らを愛をもってご覧になると、このお方の顔つきからは光線が輝き出ているように見えました。彼らの耳に聞こえた救い主の唇からの最後の言葉は、最も深いやさしさにあふれた言葉でした。

祝福のうちに両手を広げて、このお方はゆっくりと彼らを離れて上昇されました。このお方が上へのぼって行かれると、畏敬の念に

(41 ページに続く)